金田	一九〇五〇	(+)	六七六
大峰	三〇六三七	(−)	六一九
大藤分坑	八八八六	(−)	一五二九
大峰三坑	一五二三九	(+)	九四三六
方城	一六〇六九	(−)	八六〇三
第二一旭	五四六五	(+)	三七五三
三井田川	九〇五七七	(−)	四五六八
峰地	二五四三三	(−)	一八七七
宮尾	一〇九四三	(+)	八三九
岩崎後藤寺	五四九九	(+)	一四八九
起行小松	一八一七	(−)	二〇一四九
三池	一七〇四三一	(+)	八〇八五
小計	三八三二一		
△山口縣			
鵜ノ島	七七九五	(+)	三六〇
神之山	四八五三	(+)	九一七
東見初	三八五九	(−)	一二一一
第二神之山	一五三六	(+)	八〇三
西神之山	[illegible]	(+)	三五
小計	二〇九八三		
△佐賀縣			
多久二坑	六六六四	(+)	三六七
芳ノ谷	一九五七四	(−)	一四三二八
田ノ知	二八六四六	(−)	八三六三

炭坑不況と
田川地方の影響

福岡縣田川郡が炭坑地である以上石炭は田川郡の生命である夫れが炭坑の撤不撤は直ちに郡内各町村の繁榮に影響を及ぼす事は周知の事實で現に近來の炭坑界の不況が各町村に及ぼした影響は甚大で後藤寺町をはじめ伊田添田金田の各町は頗る振はず疲弊しつゝある有様である中にも甚だしきは添田町で炭坑納屋は別とし普通家屋に於て數十軒の空家を生じ町内目抜きの場所にさへ點々貸家札を發見する有様である是全く添田町の接續村大任村の中島炭坑が昨年末限り閉鎖し戸數六百十餘戸稼働者じ百五十六名が家族と共に[illegible]に移轉し又添田町の[illegible]口にあつた峰地二坑が三月末日限り閉鎖し稼働者八百八十七名が他に轉じ尚ほ其他の各炭坑も凡て幾分の縮少をした結果に外ならぬ右の有様で添田町は峰地一坑二坑岩崎炭坑其他一二の炭坑を包含し大正九年末には戸數五千三百餘人口二萬三千五百餘に達して居たが本年三月末現在に於ては戸數四千八十餘人口一萬八千八百餘となり戸數千二百餘人口四千五百餘を減じた譯で是に依つて見るも添田町が如何に不景氣風に脅かされて居るか窺ひ知る事が出來る同地の花柳界に見るも好景氣時代は三十餘の料理屋百數十名の酌婦十七名の藝妓では不足を告げて居た有様であつたが現今では料理屋の數に於ても二三を減じ酌婦は約半數の六十餘名となり藝妓も亦半數に足らぬ七名となつたが昨今では是でも尚ほ過多の感がある程であると

勞働運動の中心地
北九州へ移動す
筑豐坑夫總同盟を策して必死の闇中飛躍
淺原健三一派の宣傳猛烈を極む

日本の勞働運動は不景氣の深刻さなるに連れ漸次下火となるの趨を呈したが此に連れ運動の中心地が東京大阪から北九州へ下つて來る傾向が見えて來た北九州の運動は表面鎮靜ではあるが裏面に於ては意外の飛躍が試みられて居る模様で二十三日頃から淺原健三外七名の運動者が中心となり筑豐炭坑坑夫の總同盟會を組織せんと貝島[illegible]の福岡縣鞍手郡[illegible]の浦野大野浦の各炭坑を勞頭に目下同郡新入炭坑で宣傳中であるが淺原一味は東京大阪の一味の後援で宣傳ビラ數萬枚を携へ其の筋の尾行を巻いて各炭坑に亘り宣傳ビラの撒布或は大道演説を試みつゝ大飛躍を爲して居るので所轄直方署では一人當り三四名の尾行を附して物々しき警戒を爲して居る

坑夫同盟
宣傳根城
直方町外に潜んだ淺原健三一派

筑豐坑夫同盟會を策して目下東京大阪の一味の後援で盛に暗中飛躍を試みて居る淺原健三外三名は去る六日以來鞍手郡直方町に知古明神町第二豊後屋平田喜重方に幸袋町高尾第一坑事務員と名乗つて入込み此所を根據として各方面に向ひ盛に宣傳の手を伸べてゐる

八幡の勞働祭
五月一日演説會

八幡同志會では五月一日の勞働祭に際し大演説會を催ふすべく計畫中であつたが愈々當日午後六時から市内ヘイカラ館において大演説會を催す事に決定し幹部では目下準備に忙殺されてゐる